

取手アートプロジェクト 2011 年度活動実績報告書

2011 年 4 月～2012 年 3 月

事業背景

12 年目を迎えた 2010 年度、これまでの公募展とオープンスタジオの隔年開催という枠組から、より長期的視野に立った取り組みを通じて新たな価値観をつくりだしていくことを目指し、《アートのある団地》《半農半芸》という 2 つのプロジェクトスキームを発足した。

以降、会期を設定してイベントを行うフェスティバル型から、本当の意味でのプロジェクト型へとシフトするとともに、これまでの TAP が培ってきた人材・ノウハウ・地域資源を生かし、つなげていながら活動を展開している。

合わせてこどもプログラム、中間支援プログラム、国際交流プログラム、環境整備プログラムも地域におけるソフト・ハードの芸術環境づくりとして継続して実施していく。

活動体制

2010 年 11 月 26 日に設立した特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィスを実施本部事務局に据え、実行委員会と NPO 法人の両輪で活動に広がり可能性を持たせる体制整備を図っている。

取手アートプロジェクトの目指すもの

- アーティストの表現活動をサポートしながら、それを受け取る人びとや支える人びととの連携を促す(芸術環境整備、情報発信、ネットワーク構築)
- プロジェクトを通して取手市に暮らす多様な立場の人びとがこのまちのおもしろさに気づく仕掛けづくりを行う(クリエイティブマインドの誘発、都市力の向上)
- アートを介して、現代社会における新たな関係性を創造し、グローバルに通用する価値モデルをつくりだす(社会的価値の創造、コミュニティ形成)

2011 年度 クレジット／Credits

主催

取手アートプロジェクト実行委員会

(取手市、東京芸術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、財団法人取手市文化事業団、社団法人 常総青年会議所、取手美術作家展、特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス)

茨城県南芸術の門創造会議

(茨城県、取手市、守谷市、取手アートプロジェクト実行委員会、アーカスプロジェクト実行委員会)

協賛

東日本ガス株式会社／株式会社安井建築設計事務所／株式会社新六本店／取手ロータリークラブ

協力

関東鉄道株式会社／独立行政法人都市再生機構／日本総合住生活株式会社／取手井野団地自治会／井野アーティストヴィレッジ／とりでアートコンシェルジュ

助成等

財団法人 文化・芸術による福武地域振興財団／EU・ジャパンフェスト日本委員会

自治総合センター 地域の芸術環境づくり助成事業 (半農半芸)

芸術文化振興基金 (中間支援プログラム)

文化庁 平成24年度文化芸術創造都市モデル事業(アートのある団地、ガスタンクカメラオブスクラ)

茨城県託児助成(こどもプログラム)

平成 23 年度 茨城県新しい公共の場作りのための提案型モデル事業(NPO | アートのある団地)

日本財団 (NPO | アートのある団地)

2011 年度の概要／Overview

2011年度のTAPは、前年度に立ち上げた複数年度をかけて進行するコアプログラム《アートのある団地》および《半農半芸》、そして従来より活動を展開している「こどもプログラム」・「国際交流プログラム」・「環境整備プログラム」のほか、新たに取手市及び近隣のアーティストおよびアート活動団体を支援する「中間支援プログラム」を加えた6つの軸での活動を展開する一年となった。

特に今年度は2011年3月11日の東日本大震災および原発事故の影響を鑑みざるを得ない年となり、郊外都市で生きていくための新たな価値観・ライフスタイルを創造し、提案しようとする2つのコアプログラムにとっては、プロジェクトのスタンスを探り直しながら、参加する個々人が様々に考え、悩み、動いて行こうとする一年でもあった。本年度の活動は2012年度へと継続展開していく。

コアプログラム《半農半芸》



プロジェクトサイト:500 坪(取手市稲)、かもる一む(取手市新町・TAP 駅前拠点 2 階)

プロジェクトディレクター:岩間賢(美術家・東京芸術大学美術学部講師)



ディレクターとして岩間賢(美術家)を迎えた《半農半芸》では、放射線の影響により汚染された土地に他者とともに対峙し、考え、行動しながらこれからの生き方について探ることを目的として事業を展開した。TAP が市内に借りている 500 坪の畑地を主な活動拠点とし、同拠点の放射線数値測定、試験的な除染活動も実施。土地の現状を活動に参画する個々人が知り、それを理解し、自らのスタンスを定めるということを試みる年となった。

もう一つの拠点である「かもる一む」では、アートとは異なる分野について学ぶ勉強会や、生きることと密接に関わる食に関するワークショップなどを開催し、交流拠点化を試みた。

年度末には 2011 年度の成果発表および新たな“半農半芸”ネットワークの構築を目的として、取手駅前にあるとりでアートギャラリーきらりを会場に、世代や価値観を越えて参加者同士が繋がるフォーラムを実施した。異なる職種や世代、価値観を持つメンバーを募りながら、これからの社会を切り開くメディアとして本プロジェクトは続いていく。

プロジェクト構成

- 500 坪での実践 場所:半農半芸プロジェクト・サイト(取手市稲)
- 駅前拠点運営「かもる一む」 場所:TAP 駅前拠点
- 研究会&レクチャーシリーズ 場所:TAP 駅前オフィス及び取手市内
- 成果発表フォーラム/アーカイブ展 場所:とりでアートギャラリー“きらり”ほか >>実施事業一覧は別紙

コアプログラム《アートのある団地》



生活の集積の中にある芸術表現を介した交流拠点運営として、2009年からの活動拠点「Tappino」、2011年10月からは「いこいの+Tappino」を開いた。Tappinoは2011年でその役割を次の拠点にリレーすることとなり、クロージングとして建物自体をアーティスト兼TAP実施副本部長、佐藤時啓が作品化した(Camera Tappino!)。新拠点の「いこいの+Tappino」は団地自治会および市民ボランティアとの共同により運営し、子供からご高齢の方までが集える場所として、取手市高齢福祉課の事業であるお休み処(高齢者の受入型見守り施設)の機能も兼ね備える多世代交流拠点を目指している。

パートナーアーティストプログラムでは、4組のアーティスト、深澤孝史、徳久ウィリアム、宮田篤+笹萌恵、北澤潤らが前述の取手井野団地内の活動拠点に定期的に通い、各々のプロジェクトおよびリサーチを行った。

また、団地内のソフトおよびハードのリデザイン事業としてTappino跡地活用計画のURへの提案(OpenAとの協働)に続き、「ダンチ・イノベーターズ・プロジェクト」が始動。建築からアート、緑や明かり、地元住民など、多様な視点を持つメンバーによるチームが結成され、プロジェクトが進もうとしている。

プログラム構成

- 取手井野団地・多世代交流拠点「いこいの+Tappino」運営
- パートナー・アーティストプロジェクト
(徳久ウィリアム・深澤孝史・宮田篤+笹萌恵・北澤潤)
- UR 都市機構との連携による団地内クリエイティブ・プランの提案・実現
- Tappino クロージングプロジェクト Camera Tappino!

>> 実施事業一覧は別紙

こどもプログラム



取手市内の小学校 1 年生全員による作品展「いちねんせいのさくひんてん」2011 年度のテーマは、「そだててみたいな、こんなたね」。総勢 804 人のこどもたちが描いた「たね」からは、さまざまなアイデアが描き出された。展覧会場では、作品をアーティストと話し合いながら鑑賞する「アーティストとみるさくひんツアー」と、作品を観た人から1年生全員へお手紙が届く恒例のおてがみ企画「おともだちのえにおてがみをかこう！」を実施した。

また初めての試みとして、取手市内近隣で美術教育に携わる人、興味をもつ人びととつながることを目的として、こどもとアートについて考えるトークイベント「ワクワクがいい顔をつくるーこどもにとっての遊びとは？アートとは？」を、原島博氏（東京大学名誉教授・日本こども学会理事）をゲストに迎えて開催した。

プログラム構成

- いちねんせいのさくひんてん「そだててみたいな、こんなたね」
- 小学校へのアーティスト派遣
- 美術教育に関するシンポジウム

ワクワクがよい顔をつくる—こどもにとっての遊びとは？アートとは？

>>実施事業一覧は別紙

中間支援プログラム



取手市内及び近隣に活動拠点を持つアーティストやその活動を支援する市民が徐々に育ってきている取手市において、市では市内で行われるアートに関する活動を支援することにより芸術が地域に根付き、より活動が盛んな街として発展していくことを目指している。新規事業の中間支援プログラムでは、取手市からの受託事業(平成23年度取手の芸術活動連携サポート事業)のほか自主事業(アートルレーin取手)として、取手市内及び近隣で活動するアーティストや芸術活動団体の計18組に対し、資金面と広報面での活動支援を行った。幅広い人々を対象に、アーティストによる作品展示、ワークショップ、市民を巻き込んだアートイベント、商店の販促グッズの提案など、多様な形態をとる芸術活動が年間を通じ街の至る所で実施された。次年度以降もアートの基盤整備を積極的に継続していく。

プログラム構成

- 取手の芸術活動連携サポート事業 取手市受託事業(NPO)
- アートルレーin取手 助成:芸術文化振興基金

>>実施事業一覧は別紙

国際交流プログラム



2008年から関係を継続している韓国・安養市にある Seoksu Art Project には、7月からの3か月間、TAP2008 公募選出作家である佐藤未来(Sato Miku)を派遣し、現地で滞在制作およびオープンスタジオ、ワークショップ等のコミュニケーションプログラムを実施した。

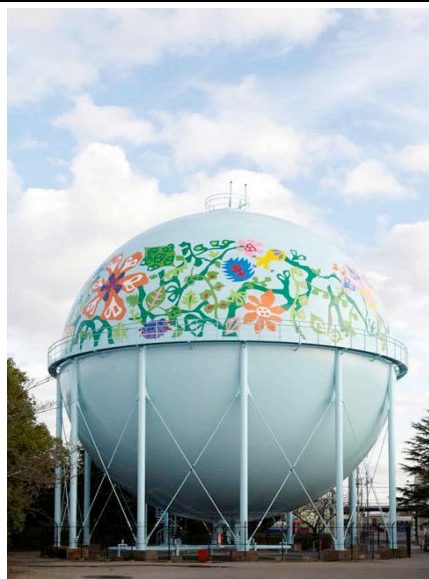
独立行政法人国際交流基金との連携により実施した JENESYS Programm では、ニュージーランドから若手キュレーターの Laura Preston を取手井野団地に1か月間受け入れた。TAP コアプログラム《アートのある団地》の活動拠点であるいこいの+Tappino で地域住民と交流を持つとともに、自身の活動や滞在意図を伝えるトークイベント、また《半農半芸》フォーラムにもゲストテーブルトークカーとして参加した。彼女の滞在を通じて我々は、地域型アートプロジェクトの現場を東アジア地域の若手クリエイターとシェアする機会となった。

プログラム構成

- アジア圏アートプロジェクトへのアーティスト派遣
- 海外クリエイター受入れ(Jenesys Program・国際交流基金)

>> 実施事業一覧は別紙

環境整備プログラム



10年に一度行う開放検査期間を利用し、球形ガスタンクを大型のカメラに見立て作品化するプロジェクトを実施した。TAP 実施副本部長である佐藤時啓(東京藝術大学教授)の発案により企画されたこのプロジェクトは、(株)東日本ガスからの多大な協力により実現した。ガスタンクの頂点に特殊なレンズを取り付け、取り込んだ外光はタンク内底面に敷いたシートにまちの風景となって映し出された。天候の影響にも左右され、残念ながら時間帯によっては鮮明な画像を見る事が出来ない観客もいたが、重厚な鉄で出来ているガスタンクの内部に入ることだけでもとても貴重な体験だったと言える。また昨年度デザインの選定が終了していた「球形ガスホルダーデザインコンペ」では、キジマ真紀(現代美術家)による新しいデザインにガスタンクが塗り替えられ、取手に新たなアートスポットが完成した。

プログラム構成

- ガスホルダーデザインコンペ
- ガスホルダーカメラオブスクラ

>>実施事業一覧は別紙